

Book Fan Newsletter

発行:平成25年9月15日

編集:塩尻市立図書館

0263-53-3365

(Book Fan Newsletter 15号)

書店員が選んだ

今月のおすすめ本



『福島からあなたへ』

武藤 類子 / 著 森住 卓 / 写真 大月書店

2011年9月19日、明治公園での「さよなら原発5万人集会」で、福島在住の武藤類子さんのスピーチは多くの感動を呼び英訳もされ、本になりました。苦悩と責任と希望をわかちあい、支えあって生きていこうということ、便利な生活の向こう側の世界を想像し、地球の一員としての生き方を問いかけています。福島を忘れないで、つながっていこうと強く思った1冊です。
(神田堂 大塚さん)

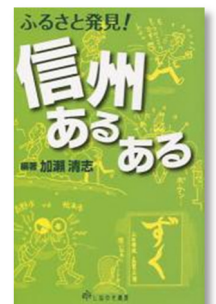


『ふるさと発見! 信州あるある』

加瀬 清志 / 編著 しなのき書房

信州人なら思わず「あるある!」と言ってしまうご当地雑学の本。
[出されたお茶を飲み干したら次々につがれる][電車のドアはボタンで開ける]など、あるある! ですよ。

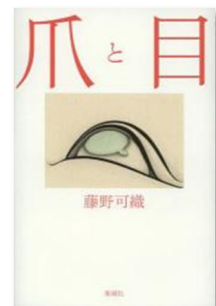
「信州人あるある」、「学校あるある」など9つのカテゴリーに分かれていて読みやすく、解説付きなので信州人でなくとも楽しめます。これが方言だったの?! なんて発見も。信州人が集まる場に持っていけば大ウケ間違いナシぞら!
(興文堂平田店 古川さん)



『爪と目』

藤野 可織 / 著 新潮社

語り手は、母親が死に、父親の愛人だった女性が後妻となった家庭の子どもである。彼女は、自分と継母がどのように過ごしたかを語る。それは、傷付いた彼女に救いの手が差し伸べられず、壊されていく過程の描写である。それ以上傷付かないために感情に蓋をした彼女が過去を他人事のように振り返る、残酷な小説である。第149回芥川賞受賞作。
(中島書店 青木さん)



『ポンチョに夜明けの風はらませて』

早見 和真 / 著 祥伝社

それまでパツとしない日々に流されてきた高校生たちの卒業までのカウントダウンが、スリリングに、そしてハートフルに描かれた、爽快感たっぷりの青春小説です。

「仲間」と「夢」。そのキーワードにひらめきを感じた途端に、「男子高校生ってそこまでやっちゃうんですか?!」という展開。でも、あとさき考えずに今この時を満喫できるのが、青春の特権。彼らはその真っ只中にいるのです♪

オトナの分別を捨てて、彼らのドタバタと一緒に巻き込まれて読むのが楽しい本です。

(中島書店 小野さん)



『楽しいね! こどもに作ってあげたい食育おやつ 安心でかんたん 120のレシピ』

長野女子短期大学食育研究会 2010 / 著 風間 悦子 / 編・監修

ほおずき書籍

長野女子短大の食育研究会の方々による手作りのおやつレシピ集。
写真がたくさん使われているよくあるレシピ集とは違い、全てが学生によるぬくもりのある手書きのイラストとなっているので、まるで絵本を見ているよう。どれもシンプルな作り方のものばかりなのでお子さんと一緒に楽しみながら手作りできそうです。

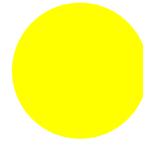
材料も野菜やくだものをメインに使った手頃で体にやさしいレシピばかり。離乳食づくりの参考にもなりそう。たまには手作りもいいな! と思えるかわいい本。

(丸文塩尻書店 金子さん)



図 書 館 員 が 選 ん だ

今月のおすすめ本



『美術館にもぐりこめ！（たぐさんのふしぎ傑作集）』

さがら あつこ / 文 さげさか のりこ / 絵 福音館書店

お宝を盗み出そうと、「ふしぎ美術館」にしのびこんだ、ちょっとまぬけな3人組の盗賊団。彼らと一緒に、美術館の裏側をのぞいてみましょう。美術品が、どうやって運ばれ、展示されているのか。照明や空調から、美術館で働く人たちのことまで、くわしく紹介されていて大人も楽しく読める1冊です。

(児童書担当 青柳)



『ペッパー・ルーと死の天使』

ジェラルディン・マコックラン / 作 金原 瑞人 / 訳 佐竹 美保 / 絵 借成社

14歳で死ぬと予言された少年ペッパー・ルーは、誕生日の朝に家を飛び出した！ 彼は死の天使から逃げ切れることはできるの！？

奇想天外な物語と張りめぐらされた伏線は、見事！ としか言いようがありません。大人が読んでも十分楽しめる、予想もつかない結末をぜひお確かめください。

(児童文学担当 青山)



『張り出し窓の街（カイロ三部作1）』

ナギーブ・マフフーズ / 著 埴 治夫 / 訳 国書刊行会

アラブ初のノーベル賞作家によるエジプト中産階級の親子三世代を書いた大河小説です。「欲望の裏通り」「夜明け」へとつづく「カイロ三部作」で、多くの言語で出版されています。20世紀初頭、エジプト革命期に時代の奔流の中を生きる人々の日常が繊細に書かれ、土地の風土や習慣などについても読みやすく丹念に訳されているので、文化を文学から感じることができる作品です。

(外国文学担当 北島)

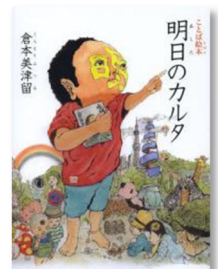


『明日のカルタ ことば絵本』

倉本 美津留 / 著 テッポー・デジャイン。 / イラスト 日本図書センター

このカルタには、著者によってまかれた笑いの種がたくさん詰まっています。くだらなくて、あたり前のようなことが書かれています。クスッと笑えたり、なるほど、と納得させられたり、中には心に沁みるものまであります。あなたもお気に入りの一つを見つけてみてはいかがですか？！

(ヤングアダルト担当 中村)



『ボイジャーくん』

遠藤 賢司 / さく 荒井 良二 / え 白泉社

Voyager (ボイジャー) は1977年にアメリカが打ち上げた2機の惑星無人探査機。暗い宇宙の彼方で今も活動を続けているボイジャーくん。「きみ」に優しく語りかけてくれる言葉一つひとつが心にしみわたります。孤独感にさいなまれた夜や、心がすさんでいるときにもおすすめの大人向け絵本です。

(芸術分野担当 林)



『時間のコレクション（ふしぎコレクション6）』

飯村 茂樹 / 写真・文 フレーベル館

「一瞬」を切り取った写真。同じアングルで、時を違えて撮られた一枚一枚を並べてみると、ひとつとして同じものはない流れゆく時間が現れます。大きな自然風景の季節の移ろい、一葉の楓が日ごと色づく様など、映像をみるのとは違う切り取られた時間から、本の中と同じく日々変化する時の流れを生きている自分に気づきます。

(児童書担当 三守)

